

りっこう

今回は水門・陸閘特集号！

今回は初秋バージョンだね！



県庁河川海岸整備課で水門・陸閘の長寿命化計画を担当している遠藤さんのお話を伺いました。今回のインタビュアーはヒヨコの葵ちゃんです。ピーヨピヨ



私の名前はお花が大好きな葵です。今日はたくさん質問します。遠藤さんよろしく

上の3枚の写真とこの施設が分かるかな～ 全部分かれば水門博士だね。（答えはこのページ下にあります）



遠藤さん

Q. 水門・陸閘(りっこう)とは、どんな施設ですか？

水門は、洪水・高潮・津波から背後地を守るため、河川に設けられる構造物です。水門のうち、ゲートのある通水部分が暗渠型（トンネル型）の構造のものは、樋門と呼んでいます。

一方、陸閘は、生活道路などのために、利用者が堤防の途中を容易に横断できるような部分的に開口部を設けた構造物です。高潮や津波等で被害が想定される場合は、ゲートを閉めて水害に備えます。最近では駿河湾沖地震、東日本大震災、遠地津波の千リ地震でゲートを締めて津波に備えました。

水門・陸閘、いずれの施設も、洪水・高潮・津波から、皆さんの命や財産を守るとても重要な施設なんですよ！



常念川水門(静岡市)



芳川左1号樋門(浜松市)



巴川松井町9号陸閘(静岡市)

写真の答え ①入道樋門(富士市) ②萩間川相良水門(牧の原市) ③仿僧川水門(磐田市)

Q. いざという時に壊れて動かないことはないですか？

そんなことがないように、点検に関するルールを平成19年度にマニュアルとしてまとめました。

水門などは、普段はほとんど動いていない施設なので、目に見えにくい機械や電気系の設備の状態を目視だけで把握することは困難です。

このため、いざという時にしっかり働いてくれるよう、マニュアルに基づいた定期的な点検を実施しています。

また、点検結果や修繕した記録については、今後の維持管理計画（長寿命化計画）の策定に役立てるよう、データベースに蓄積しています。



地震計の点検状況(栃山川水門)

Q. 水門・陸閘の長寿命化計画ってどんな計画ですか？

厳しい財政状況の中、劣化の進行が小さいうちに補修を行う方が、施設の寿命から考えると経済的である場合があります。このため、施設の現状を把握し、劣化の進行を予測するなど、少し先を見据えた効果的で効率的な維持管理を行っていくことにより、施設の延命化とコスト削減を図ろうという計画です。

Q. 長寿命化計画っていつごろできるんですか？

昨年、沼津市にある沼川第2放水路という施設の長寿命化計画を県内で初めてまとめましたが、水門・樋門・陸閘をあわせると、全部で200箇所以上の施設があるので、当面は、ぼう僧川水門をはじめとする2門以上を有す大規模な水門を対象に順次まとめていきたいと考えています。



沼川第2放水路の各施設



制水門



排砂水門



暗渠吐出部

●建設技術監理センターより

・土木施設長寿命化計画の目的は、現在ある施設をより長持ちさせて、コストの削減を図ることです。

それには、まず、その施設が現在どのような状態になっているかを知ることが重要です。

そのため静岡県では、施設点検を定期的の実施して、損傷がひどくなる前に修理をする方法で施設の長寿命化に取り組んでいます。

今後もいろんな工種を紹介していきます。(次号は**橋梁**の特集を予定しています)

・第18回アセットマネジメント担当者会議幹事会が山口県で開催され、静岡県からは、道路整備課橋梁班1名と、建設技術監理センターの職員1名が参加しました。

会議では参加した自治体が抱える課題を、討議、情報交換をしました。

静岡県は、取り組みの進んでいる舗装・橋梁について全国に紹介しました。



<第7号発行にあたり>

今回は、あまりなじみの無い、水門・陸閘について、現在どんな取り組みを実施しているか特集しました。

いざという時に活躍する施設のため、普段は忘れられがちですが、担当者の遠藤さんの施設管理に対する熱い思いを聞くことができ、“安心感”を覚えました。

こんな特集をしてほしいなど、ご意見、ご要望をお寄せください。 技術支援第2班 佐原・海野

前回のクイズの答え

スピードを上げるときやブレーキをかける時の加速度を考慮すると、舗装にかかる衝撃が荷

答えは ③の16万台です。重の4乗になります。よってタイヤ1本あたりの加重は 5,000/250の4乗になります。

水門・陸閘に関するクイズです。

水門・陸閘の施設には地震計により、地震の加速度を感知して作動する施設がありますが、静岡県が管理する施設の場合、およそ何g a l (ガル) で作動するでしょう？

①150gal以上 ②200gal以上 ③250gal以上 答えは次号で発表します。

発行・編集

静岡県建設技術監理センター

〒421-0122

静岡市駿河区用宗1丁目10-1

TEL 054-268-5004

FAX 054-258-6030